

Universität Rostock

# ロストック大学

所在地  
Sprachenzentrum Ulmenstraße 69, Haus 1 18051 Rostock, Germany  
ホームページ: <https://www.uni-rostock.de/>

主な対象学部  
外国語学部・語学留学(独)

## 沿革

1419年に創立されたロストック大学は、バルト海沿岸のハンザ都市ロストックにあるドイツで三番目に歴史の長い大学。大学本館の正面に刻まれた「多角的教育－普遍的真理」(DOCTRINA MULTIPLEX-VERITAS UNA)という理念のもとに、「伝統と革新」(TRADITIO et INNOVATIO)という指導方針に基づく教育が行われている。北ドイツの森とバルト海の自然に囲まれた美しい都市は学習と研究に理想的な環境。

## 特色

レベルにより主に二つのコースに分かれる。B2以上のレベルの学生はSprachenzentrumで、B2未満のレベルの学生はStudy in Germanyコースで、それぞれ他の外国人留学生と合同の授業を受ける。どちらのコースに入るかは学生のレベルに合わせ留学前に決まるが、場合によっては申し込み時にテストを受け、その結果によりコースを決める。

同大学では麗澤大学の概説科目の単位に相当する授業を特別に委託していないので、選択科目に関してはチューターや担当教員に自分で相談しなければならない。英語の授業はレベルが高く、麗澤大学の学生は履修できないこともある。また、Study in Germanyコースでは追加料金がかかる場合がある。

留学開始までにドイツの生活環境に慣れるため、9月にドイツ各地で行われる語学研修に参加することを推奨する。

## 宿泊

学生寮(個室)は市の中心と周辺に散在しており、それぞれ特色があるが、教室に徒歩で通える寮を選ぶ。

## 生活

街の中心にある大学本館と、それに続く複合棟の他に、多くの大学の建物が市中に散在し、学生は路面電車を使用して各棟に移動する。学生食堂の他に、大学の近くにバルト海産の魚が食べられるレストランが多く、食生活は日本人に理想的な環境。その他、生活に必要な物は近くですべて揃う。学生課や国際交流課にあたる部局で授業と生活面、ともに充実した指導が受けられるが、担当する事務員はドイツ人なので単独で留学する場合と同じ状況で生活することになる。同地の独日教会との交流も盛ん。

## 条件

留学前までにドイツ語基礎演習Ⅲを修了し、CEFR・B1試験に合格または同等の能力を持つと判断される者(ZD試験合格者等)、かつ自立的に生活できると判断される者。なお、条件を満たしている場合でも、単独留学と変わらない環境で勉強することになるので、留学先、留学期間等についてドイツ語・ドイツ文化専攻で指導する場合がある。

## 留学時期

2年次第2学期から1年間(定員5名)。(冬学期:10月～2月/夏学期:4月～7月)



大学本館



語学センター



大学前広場



大学内のマリーエン協会

## ドイツでの10ヶ月間と感謝

外国語学部ドイツ語・ドイツ文化専攻 2015年留学 柿崎 千穂

私は、昨年9月から今年の7月末までドイツに留学した。9月から1か月間、ドレスデン工科大学の語学研修に参加し、レベル別の実践的なドイツ語の授業を受けた。また隣国である、チェコやオーストリアへ旅行したり、オーケストラを鑑賞したり、友人とバーに行き話したり、文化に触れたり、他学生と交流を楽しんだりと多くのことを経験できた。10月から始まるロストックのレベルに到達したこともあり、授業にむけて自信をつけることもできた1か月であった。

10月からのロストック大学での授業は、毎日2コマから3コマあり、午前中で終わる日もあれば、夕方まで授業を受ける日もあった。授業は、文法、会話、ビジネスドイツ語、地域研究学、音声学、英語を決められた

プログラムに沿って履修した。決められていた授業であったため、自分で申し込む必要がなく、その面は助かった。授業は、教科書に沿って学ぶというよりは、先生方が自ら作った教材を使って、パートナーやグループを組み、テーマについて考えたり、ロールプレイングをしたり、学生が主体となる授業であった。クラスは少人数であったということもあるが、自分の意見を言いやすい雰囲気であった。しかし、そのなかでも、頭を悩ますことがあった。それは、ビジネスドイツ語の授業であった。主に仕事の場でビジネスパートナーと使う表現、単語、丁寧語、ビジネスパートナー宛の手紙の書き方など実用的なドイツ語を学ぶことが出来る授業だった。私にとって、ビジネスにおけるドイツ語を学ぶことは初めてで、前期の授業では、先生の言っていることが分からなかったり、ロールプレイングの際に、パートナーが10話すことに対し、1しか返せなかったりと、自分の実力不足さに悔しい思いをしたことが幾度となくあった。授業内では、ほぼ毎回、

小テストや単語テストがあり、授業後には復習をしたり課題を片付けたりと時間を費やした。その甲斐あってか、授業内で先生が出す課題の意味がわかったり、ロールプレイングでも教科書を見ずにスムーズに話せるようになったりと、苦手だった授業に楽しく参加することができた。

さらに、ドイツ語学習の上でやっていて良かったと感じるのが4人のタンデムパートナーと週1回のカフェや海岸での他愛のない会話であった。分からない課題を教えてもらうだけでなく、1日の出来事、若者言葉、文化、ロストックのことなど、授業では学ぶことができないことを多く知ることができた。私も、日本人の性質、ドイツに来て日本との文化の違いを話す大変興味を持ってくれたことは、とても嬉しく思った。

また、ロストックには、パートナーシップという制度があり、ロストックに在住する年配の方とパートナーになり、週2～3回程度、授業後や休日に家に行ったり、一緒に出掛けたり、交流しながら休日でもドイツ語に

触れ、ドイツの家族の在り方、文化、考え方を肌で感じる事ができた。私は、友人のパートナーさんに仲良くしてもらい、ドイツの典型的な夕食を体験させてもらい、また車でリューゲン島というところに連れて行ってもらったりと沢山のことを経験させていただいた。

この10か月間の留學生活の中で、VISAを取得することで一番苦労した。役所には、私のほかにも住民登録をしに来る人で溢れかえっているため、ドイツ語で自分が伝えたいことをうまく伝えられず、門前払いのように帰れと言われることも何度かあった。一時は、心が折れそうになったが、家族、周りの友人、ロストック在住の日本人の方、ロストック大学の先生方、タンデムパートナーのおかげで無事にVISAを期限内に取得することができた。周りで支えてくれる人々がいたからこそ、今回の私の留學生活を無事に終えることができ、成功させることができたと思う。お世話になった方々、10か月間ありがとうございました。